

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3871100230
法人名	有限会社コミュニティハウス
事業所名	グループホーム・コミュニティハウス北条
所在地	愛媛県松山市北条5 8 8 番地3
自己評価作成日	平成21年9月30日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成21年10月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

・家族や身内、大切な人との関係性を大切にしており、スタッフだけでは実現しにくい事(特別な所への外出など)に対して、家族や身内の方が進んで協力してくださる。
 ・かかりつけ医との関係性を大切にし、利用者や家族の声を優先的に聞いてもらえるよう努めている。
 ・利用者が悩んでいる時や何か言いたそうな時には、その悩みや思いを言いやすいように、個別の担当や管理者と一緒に外出したり、居室に訪れたりマンツーマンでの対応に力を入れている。
 ・スタッフ同士が意見を言いやすいように、リーダーを中心に現場ではどの立場でもフェアな関係でいられるように心掛けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

小学生の社会科見学や事業所で行う「七夕」や「敬老会」時に、幼稚園の園児の訪問がある。北条祭り時には、愛護班の子供だんじりが来てくれ見物された。又、事業所の「夕涼み会」には地域の方々も参加していただき、三味線やフルートの演奏を聞かせてくださった。
 事業所で飼っている愛犬(さくら)の散歩に行かれている利用者もみられた。お弁当を持って坊っちゃんスタジアムに高校野球を見に行かれたり、時に、好みの衣類を買いに出かけることもある。「高縄山花祭り」のチラシを見て、高縄寺に出かけられた。お若い頃「高縄寺に来たことがある」と、茶店でぜんざいを食べながら思い出話をされた。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目：30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム・コミュニティーハウス北条

(ユニット名) 2階

記入者(管理者)

氏名 和田 博文

評価完了日 平成21年 9月 30日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 家族会等で理念について説明したり、玄関・リビング・事務所に明示し利用者や家族が理念を理解できるように努めているとともに、スタッフもその都度確認できるようにしている。 職員会などで再確認を行い、一人一人のスタッフが実践しようと心掛けている。	
			(外部評価) 事業所では「認知症になった時、自分なら、どのような事をして欲しいか」との考えのもと、利用者や地域の方の立場に立って理念を作っておられ、理念の一つに「私達は、利用者の自立性を大切に地域と共に利用者が当たり前暮らしを社会作りに取り組みます」と掲げて取り組まれている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 事業所が地域の一員として交流を大切にしている。地域の自治会に加入しており、地域の大掃除や河川の清掃、廃品回収等にも積極的に参加し地域の一員として徐々に認められてきた実感がある。	
			(外部評価) 小学生の社会科見学や事業所で行う「七夕」や「敬老会」時に、幼稚園の園児の訪問がある。北条祭り時には、愛護班の子供だんじりが来てくれ見物された。又、事業所の「夕涼み会」には地域の方々も参加してくださり、三味線やフルートの演奏を聞かせてくださった。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 認知症への理解も含めて、介護の基礎知識や車椅子の使い方等の講習を地域の方や他事業所の職員の参加を呼びかけ地域の公民館の会議室を借りて行なった。参加人数は少なかったが、定期的開催する予定で引き続き地域の方にも運営推進会議を通じて参加を呼びかけていけるよう努めている。 デイサービスを通じ地域貢献・交流に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 出来る限りスタッフは会議に参加し、地域の方、家族等の生の意見を聞き、実際に活かせる様に努めている。参加できなかった職員には職員会や議事録を明示する事で、意識の共有をはかっているが、まだまだ運営推進会議の重要性が理解できていない感がありサービスにつながっていない。	施設長は、今後さらに、地域の方達に認知症や事業所のことを知っていただけるよう、会議のすすめ方に工夫していきたいと話しておられた。
			(外部評価) 運営推進会議の時、事業所広報誌「風早のお便り」をお配りしている。出席者からは「ホームのことが分かり、親しみが感じられ良かった」と感想をいただいた。地域の役員の方々にも会議に参加していただいている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 市担当者も参加する地域会議に積極的に参加し、意見交換や情報収集に取り組んでいる。また、地域会議の中で行われる地域密着型サービス連絡会議では事例発表やホームの実情を話し合い、市担当者に直接意見をしたり理解していただけるように努めている。運営推進会議にも毎回参加していただいております。	
			(外部評価) 事業所では、毎月1回、市の担当者も参加する地域会議に参加し、事業所の現状について伝えたり、相談されている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 普段の生活の中で身体拘束について話し合ったり、スタッフ同士確認しあっている。 また、マニュアルを作成したり、職員会やカンファレンスで定期的に、身体拘束についての勉強会や話し合いを行う事で、スタッフは身体拘束をしないという意識を持ち、拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	
			(外部評価) 施設長は「できる機能がある人は拘束しないし、してはいけない」と考えておられる。どのようなことが拘束に当たるか職員で勉強されている。ご家族から「安全のためにベッド柵を四方に取り付けて欲しい」との要望があった際には、ご本人の状態やケア等について説明して、拘束をしないケアについて理解していただいた。調査訪問時、玄関は開けておられた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		<p>虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>虐待に関する勉強会や日々の生活の中で話し合う事でスタッフが意識して対応できていると思う。日々の生活の中で行き過ぎた声掛けや介助がないかスタッフ皆が再確認しあうことで防止に努めている。虐待に至る原因の一つである介護者のストレスや精神的な負担の軽減の為に、管理者や職員皆がフォローしあえる関係作りに努めている。スタッフの虐待に対する意識を高く持ち続ける為に、継続した勉強会や話し合いを持つよう努めている。</p>	
8		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>権利擁護や成年後見制度についての研修等には出来るだけ参加しているが、全ての職員が周知しているわけではない。現在、権利擁護事業を利用している方がおり、その関係者とも定期的に連絡をとり連携できている。</p>	
9		<p>契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>契約・解約・改定時には、それに基づく書類（契約書や重要事項説明書）を利用者・家族同席のもと説明しながら読むようにし、不安な部分や疑問点があれば分かりやすく説明している。また、後日、問い合わせ等があった時でも、責任者がきちんと対応し納得・安心していただけるように努めている。</p>	
10	6	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>家族会を実施しており、その中で多数の意見や要望を頂いた。また、日々の生活の中で利用者からの意見や要望を聞いたり、家族には面会時や葉書や手紙、電話連絡等で近況報告を行う事で家族とのコミュニケーションをはかり、その中から頂いた意見や要望を職員一同で話し合い、出来る限り反映させている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>年1回、家族会を開催されており、家族会主催の行事の企画等も提案いただいた。事業所では、11月にご家族の協力のもと「いもたき」を計画されている。又、家族会でできる、お手伝い（散歩、買い物、食事の準備等）を申し出ていただいたり、夕涼み会等の行事時にも協力してもらっている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月職員会やカンファレンスを開催し、職員が積極的に意見を出し合えるように会議を工夫をしている。また、個別でも、いつでも意見交換や提案を話すことが出来ており、必要であれば職員会や申し送り簿を通じて職員皆が周知できるように努めている。	
			(外部評価) 職員のアイデアで壁飾りを作られたり、又、利用者の体調等も踏まえケアのアイデア等も出され、採り入れて取り組まれている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職能給を導入し、個々の努力や実績を反映できるように勤めています。また、資格習得にむけたバックアップ体制を22年度には導入できるように現在準備中であります。	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 社内研修の実施や外部研修に職員が積極的に参加できるように年間の研修計画を作成して実施している。職員の疑問や受けたい希望の研修など事業所が聞き実施している。又、職員会やカンファレンス等でも定期的に勉強会を行い、スタッフの育成に取り組んでいる。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 毎月開催されている地域包括支援センターを中心とした地域の同業者との連絡調整会議に積極的に参加し意見交換や勉強会を行っている。研修等で知り合った同業者の方とは定期的に連絡を取り、新しい情報や悩み等話し合っている。今後は相互訪問や研修の受け入れ等を検討している。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 利用前には必ず訪問を行い利用に至るまで、一貫して同じ担当スタッフが対応し、少しでの顔なじみの関係になれるよう努め、本人の不安や要望を積極的に聞きいれ柔軟に対応する事で安心を得れるように努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 前項同様、利用前訪問からサービス利用に至るまで、一貫して同じ担当スタッフが対応する事で、家族が不安や要望等を言いやすいようにし、出来る限り意見に対し柔軟な対応をする事で信頼関係を構築し安心して利用できるように努めている。	
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人の身体・精神状態の見極めや希望・要望の把握を早急に行ない、また、家族の関係性や希望・要望を把握した上で、何を必要としているのかグループホームの職員だけではなく、ケアマネや関係する方々も交え話し合いを行い、必要であれば、その機関と連携を取り合い支援していけるように努めている。	
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) スタッフは介護する側される側といったような意識を持たず、利用者と行動を共にする事で、利用者との関係構築に努めている。	
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 利用者の生活の状況や様子を定期的に連絡する事で、家族も今の利用者の状態を把握している。グループホームに入居した事で、いらぬ事をして迷惑をかけたらいけないと思い込んでいた家族さんにケアの協力をして頂けるように声掛けした事で、以前に比べ利用者との関係がよくなった家族さんもおられた。	
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 自分で歩いて自宅近くの馴染みの美容室を利用したり、ドライブ等で馴染みの場所へ出掛けたり、お祭りや行事ごとの時には自宅で家族皆で集まったり、昔馴染みの知人の面会があったりする。お盆やお彼岸には家族やスタッフとお墓参りに出掛けている。今後も続けていきたい。	
			(外部評価) 利用者が以前から行っておられた喫茶店には、現在、車椅子でも出入りできるようスロープ作ってくださっており、出入りがスムーズにできるようになっている。お彼岸のお墓参りに同行されたり、衣替えに自宅に戻る方にも付き添っておられる。姉妹に手紙を書かれる方や、入居以前から愛読されている文芸春秋の雑誌を続けて購入されている方もある。	「地元の友人のお店に行きたい」と希望される方等もあり、施設長は近々、行ってみたいと話されていた。利用者個々の大切にされていることや場所、人等を探り、支援を続けていかれてほしい。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 日々の生活の中で、利用者同士の関係性を把握し、仲の良い利用者同士はその関係が続くように、孤立しそうな方に関しては、スタッフが良き理解者となり利用者同士のクッション役となったり、耳の遠い方同士に関してはスタッフが間に入りコミュニケーションをとるなど、その時々に応じて柔軟に対応している。利用者・職員とが共に支えあいながら生活していけるように努めている。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所された場合でも、他のサービスを利用する際の相談窓口となれる様にお伝えしている。また、近所でお会いしたときには積極的に会話するように努めている。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用前から利用に至るまで、日々の生活の中で、家族や知人からの情報等、様々な場面で得る本人の希望や思いの情報をスタッフ皆で共有する事で把握できている。また、困難な方に関してもスタッフ皆が様々な意見を出し合い、その方の希望や思いを職員主導の考えではなく利用者本位に考えられるように努力している。 (外部評価) 日々の利用者の言葉や表情からご本人の思いの把握に努めておられる。ご家族とかかわる中からも利用者ご本人の新たな情報を得ておられる。	さらに事業所では、利用者個々についてのアセスメントに取り組んでいきたいと考えておられる。事業所独自の様式の工夫等、介護計画に反映しやすいようなアセスメント様式の工夫をすすめていかれてほしい。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 事前訪問時や普段の生活の中からでた本人のお話、また、家族や身近な方からのお話等、情報収集しカンファレンスや申し送りしてスタッフ皆が共有し把握できるように努めている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 居室で自分の時間を過ごされる方、リビングで他の方との関わりを多くもたれる方、利用者それぞれの一日の過ごし方をスタッフは把握しており、スタッフのいるところに利用者を集めるのではなく、スタッフが居室や利用者のところに行き、一緒に過ごす事で利用者の状態把握に努めている。利用者の有する力の把握については、まずは利用者がどこまで出来るのかを理解した上で、スタッフは手出しし過ぎない様に見守ったり、さりげなく手伝ったりしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 利用者からは日々の生活の中で出た意見・言葉を中心に、家族からは面会時や個別の担当が意見や要望を聞くようにしているが、中々家族から積極的な意見が聞きだせず「お任せします」といわれる事が多い。モニタリングや介護計画は毎月のカンファレンスの時に行なっているが、利用者や家族の参加が時間的に難しく職員が話し合うような形になっている。家族会で介護計画について話し合い様々な意見をいただけるよう協力を仰いだ。</p> <p>(外部評価) 毎月モニタリングを行い、介護計画について見直しをされている。ご家族の来訪時や遠くにお住まいのご家族には電話で、要望等を聞いておられる。</p>	<p>遠くにお住まいのご家族からも、介護計画について要望やご意見をいただけるよう、働きかけに工夫されてほしい。</p>
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 利用者の言葉や表情を中心に記録し、それを朝夕の申し送りで伝達している。また、新たな発見や工夫点などもスタッフ皆が共有する事で継続性のあるケアができるように努めている。また、日々の実践で得た情報や利用者の変化をもとに介護計画の見直しや作成に活かしている。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 外出、外泊、病院受診、買い物、お墓参り等、様々な状況の中で希望があれば、その都度柔軟に対応している。 デイサービスを始めた事で、特に外出したり、デイサービスの利用者との関わりを持つ事が多くなり、利用者にとってもよい刺激ができてきた。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 地域の警察や消防には利用者がもし行方不明になった時に即対応してもらえる様に利用者の顔写真や特徴を明記した資料を渡している。近所の馴染みの喫茶店は、利用者のためにスロープを設置して下さった。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 入所前に利用者個々のかかりつけ医を聞くようにしており、入所後も引き続きその医師の医療を受けられるように医師との連携を密にとっている。また、急に家族や本人から医師の変更を求められた時でも柔軟に対応し、その希望される医師の医療を受けられるように、かかりつけ医と話し合い本人・家族の希望を優先的に考え、新たな医師の医療がスムーズに受けられるように努めている。また、医師とは24時間連絡できる体制作りをとっている。</p> <p>(外部評価) 利用者の受診時には職員が同行されている。</p>	
31		<p>看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 協力医療機関の看護師と契約し週1回利用者の健康チェックをして頂き、利用者の状態やわからない事を伝え、適切なアドバイスや助言を頂いている。また、利用者の状態によって、適切な医療を受けられるように看護師が医師とのパイプ役となって頂き、スムーズに病院受診できるように努めている。また、看護師と利用者との関係性もよく、利用者自ら相談される事もある。</p>	
32		<p>入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>(自己評価) 入院時は介護要約を持参し、医療機関が混乱無く対応できるよう、また、利用者がホームとの生活の差で混乱が生じないよう、病院にホームの様子や生活のペース等、情報提供している。入院中もスタッフがお見舞いに行き利用者が安心して治療を受けられるよう努めている、医師や看護師に状態を尋ねる事で利用者の状態の把握に努め早期退院できるようにホームの環境整備にも努めている。</p>	
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 利用契約時から、終末期ケアの事についての説明を行い理解を得ている。また、定期的に終末期ケアに関する話を家族と行い、その時々で変わる家族の心情を理解した上で、ホームとして出来る事、環境面の整備等、スタッフで話し合い家族や本人が選択しやすいように努めている。また、終末期の医師との連携・連絡方法も早い段階で医師と話し合い家族・利用者が安心してケアを受けられるように努めている。</p> <p>(外部評価) ご家族の希望や考えを聞き、医師の助言等を踏まえて、相談しながら支援されている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変や事故発生時の対応は日頃からスタッフ皆で話し合っているが、事故発生時に冷静に対応できるように、勉強会や講習会等を定期的に行い、実践力を身につけていく必要がある。また、事故に対する意識やリスクを常に考え行動できるようにスタッフの意識改革を行なっていかねばならない。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回、全職員対象で日中・夜間想定火災に対する避難訓練を消防署員や防火機器会社職員の立会いのもと行っている。その際、初期消火訓練・防火設備の点検も行っている。地震・水害等の災害に対しては、現在マニュアルを作成中であり火災と違い避難経路も変わってくる為、避難訓練時に検討が必要である。運営推進会議で地域の方と災害における協力について話し合いを持っている。 (外部評価) いざという時には、地域の方に「利用者の見守りや自宅への受け入れの協力」をいただけるようになっている。夜間想定火災時の避難訓練を行われた。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) スタッフ一人一人が利用者個々の人格やプライバシーをよく理解しており、日頃から利用者に関わりを持つ時には言葉掛けや対応に気をつけている。また、居室のドアの開け閉めや、プライベート空間の立ち入り方等にも十分気をつけて対応している。 (外部評価) 「トイレの戸や部屋の戸を開けっ放しにしないこと」や「ノックして居室に入ること」等、当たり前なのがちゃんと行なえるよう気を付けておられる。職員は、食事時、利用者の口の周りについた食べ物をそっと拭かれる等、気配りされていた。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日常会話の中で、利用者の希望や要望を聞きだすために、信頼関係を築き上げたり、聞き役になる事で、新たに見えてくる事が多くなった。そして、その事に対して実現できるように、アドバイスであったり方向性を示す事で、利用者はより選択したり決定しやすくなっているのではないかと感じる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 特にスタッフの日課は決めておらず、利用者個々に合わせてスタッフが柔軟に対応できるように努めている。一日の始まりに利用者の予定を聞いたり、利用者の希望や要望に対してどのように行動するかを利用者と相談する事で、利用者の予定を決め、それに合わせてスタッフが動けるように、申し送り時等にスタッフが1日の予定作りをしている。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 起床時や外出時等、利用者にとどの洋服が良いか聞いたり、相談しながら一緒に決めたりしている。身だしなみの面でも、起床時の洗顔・整髪、外出時の身支度等、気を使って行なっている。化粧等は今されている方はいないが、希望があれば対応できるようにはしている。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者の介護度が進み準備や片付けが難しくなっているが、下膳等は手伝ってくださる方がいる。一人一人ができる事を尊重し、出来る事を無理なくしていただけるように、一緒に行なうようにしている。また、食器等はメニューに合わせてたり、お気に入りのものを使用したり、使いやすいものを使用している。盛り付けや味付け等にも気を配っている。 (外部評価) 誕生日には利用者のお好きなメニューを1~2品増やしてお祝いされており、調査訪問日に誕生日の方がおられ、お好きなほうれん草の白和えを皆で食べながらお祝いされている様子うかがえた。スプーンを使って食事をされる方には、すくいやすいような食材の大きさにされていた。ご自分の食器を下膳されている利用者も見られた。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 管理栄養士が食事メニューを作成しており、カロリー計算もしっかり管理されている。食事量も毎食きちんとチェックしている。おやつも手作りであったり、お茶やコーヒー等の飲み物も利用者の希望があった時や一休みの時にお出ししたり、いつでも飲めるようにセッティングしている。水分摂取量等は細かいものではないが、どれくらい飲まれているかはきちんと把握している。利用者個々の状態に応じて食事の形態も工夫している。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 口腔ケアや義歯の洗浄は朝夕行なっている。また、利用者の状態に合わせて毎食後の口腔ケアの声掛けや支援を行なっている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) スタッフは利用者の排泄のリズムをおおむね把握しており、利用者一人一人に合わせて、声掛けしたりトイレ誘導をしている。排泄チェック表を個別につけており、それをもとに随時誘導、声掛けをしている。それにより、在宅でオムツを使用していた方や失敗が多かった方もトイレで排泄できるようになった。	
			(外部評価) 入居時にオムツを使用されていた利用者が「車椅子に座れるなら、トイレにも座れるのではないか」ということに職員が気づき、排泄チェック表をもとに誘導等をされ、トイレで排泄できるようになった事例がある。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 管理栄養士は食事メニュー作りに際して、食物繊維の多く含んだ食物を使用するようにしている。おやつ時には乳製品を定期的にお出しするようにしている。スタッフは利用者の排便の状況を把握しており、便秘傾向の方には水分補給や運動・腹部マッサージ等を行い下剤などできるだけ使わないで済むように努めている。	
			(外部評価)	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 個々の健康状態に応じて、日や時間にとらわれず、いつでも入浴できる環境を整えている。入浴の好きな方や利用者が入浴日を決めている方に関しては、その日やタイミングに合わせて、お風呂を準備したり声掛け等を行っている。自分で訴えが少ない方に関してはスタッフが声掛けをしている。入浴が嫌いな方は家族に協力してもらう等、色々工夫している。	
			(外部評価) お風呂場の脱衣室には、庭に咲いていた露草の花が生けられており、会話のきっかけにもなっている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 自分で一日の流れを決めている方に関しては、そっと様子を見るようにしているが、昼間寝すぎて夜間眠れなくなる事があるので、適度に声掛けしたり気分転換に日光浴や散歩等を行い、出来るだけ夜間眠れるように努めている。また、夜間の睡眠状態や健康状態によって適度に休めるように支援している。休まれる際には光の具合や温度・湿度等気をつけている。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) スタッフは処方箋の説明書きやお薬手帳に書かれている薬の効能や説明、副作用等しっかり読むことで、利用者がどんな薬を服用されているのか、また、その副作用はどんなものか理解している。また、不明な所は担当の医師や薬剤師に説明を受けるようにしている。服薬による利用者の変化等は受診時や電話連絡等で医師に伝え、適切な薬が処方されるように努めている。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 例えば家族から飲酒を止めるように言われている方も、何か行事ごとの時には飲酒をしても良いようにスタッフが家族に働きかけ実現できた方もおり、少しずつ利用者の楽しみを取り戻したり、実現できるように努めている。また、日々の生活の中では、利用者一人一人が出来る事、また、自分の役目だと思われている気持ちを大切に洗濯物たたみや新聞折り・ゴミ箱折りなど、その方の活躍の場をたくさん作れるように努めている。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 医師より、老衰によりターミナルケアが必要だと言われた方も、今まで習慣にしていた、お盆やお彼岸のお墓参りを家族の協力の下実現できた方がおり、それをきっかけに元気を取り戻した方もおられた。また、日々の生活の中でも買い物や外出の希望がある時にはスタッフが柔軟に対応したり、デイサービスの利用者として外出するなど、ホーム内に閉じこもらず、どんどん外に出て行けるように努めている。 (外部評価) 事業所で飼っている愛犬(さくら)の散歩に行かれている利用者もみられた。お弁当を持って坊っちゃんスタジアムに高校野球を見に行かれたり、時に、好みの衣類を買いに出かけることもある。「高縄山花祭り」のチラシを見て、高縄寺に出かけられた。お若い頃「高縄寺に来たことがある」と、茶店でぜんざいを食べながら思い出話をされた。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 本人のおこづかいや預かり金等はホームで管理しているが、自分で管理できる方に関しては家族とよく相談した後、預かり金とは別に、おこづかいを管理されている方もいる。買い物や散髪等の時に自分で支払えるよう支援している。管理できない方に関しては、スタッフ同席のもとで支援している。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 定期的に家族に手紙を書いている方がおられる。外出時に自分で投函したり、頼まれればスタッフが投函している。また、電話も自由に出来るように利用者の手の届く所においている。使い方が分からない方は、お手伝いしたり、耳が遠い方などはスタッフが用件を聞きながら伝言役となっている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>リビングは季節によって飾り付けを変えたり、行事等の思い出の写真を飾ったりしている。また、季節の花を飾り季節感を感じられるようにしている。トイレや浴室等も清潔に保ち、利用者が心地よく使用できるように努めている。テレビの音や物音、声のトーンなどにも気をつけている。リビングの温度が低い時があるので気をつけたい。光の具合はカーテンや照明器具で適度に調整している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>庭に植えられているお花がテーブルに生けられていた。めだかの餌やりをされている方や飼っている猫や犬をかわいがっている方もある。玄関前にはテーブルと椅子が置かれていた。壁には夕涼み会や北条祭りの写真が飾られていた。</p>	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>リビングや廊下に適度に椅子やソファを設置し利用者が過ごせる場所を作っている。利用者個々にお気に入りの場所や、自分のテリトリー的なものがあり、それに合わせてスタッフは対応している。リビングが狭いので中々一人になれる場所がないが皆で団樂するにはちょうどいい広さである。</p>	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>入居時に家族や本人に自由に使い慣れたものを、持ち込んでいただきたいことを説明し協力を得ている。中には季節によって部屋の模様替えをしたり、定期的に自宅に帰り自分で選んだものを持ち込んで自分の部屋作りをされている方もいる。しかし、中には全く持ってこられない方や、入居時に緊急的に買い揃えた方もいる。今後はその様な方の支援も家族に協力していただき行っていきたい。</p> <p>(外部評価)</p> <p>馴染みのタンスや鏡台を持ち込まれている方もある。鏡台には化粧品が置かれていた。地域の方にいただいた壁飾りを飾っておられたり、神棚を祭っておられる方や仏壇を持って来られている方も見られた。</p>	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <p>利用者一人一人の状態を考え、必要なところに手すりや、もたれる事が出来る物、椅子を置いている。居室のベットの高さも一人一人に合わせている。利用者が自分の部屋やトイレ等迷わない為にも、見えやすいところに名札や目印をつけている。</p>	